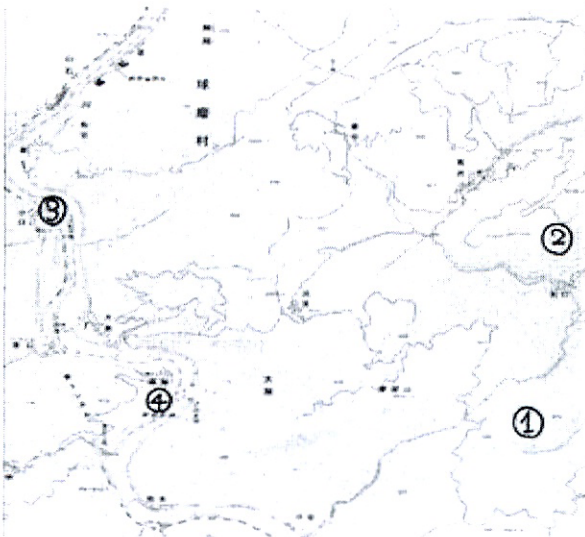


球磨村権現山周辺の斜面崩壊および三宝山帯の地質

熊本大学教育学部 山田翔太郎

1 はじめに

平成 22 年 4 月 29 日に球磨村権現山周辺の斜面崩壊および三宝山帯の地質巡検会が、熊本大学の田中均先生の案内で行われた。主な目的は、田中他(2009)で報告されている斜面崩壊地形の観察であった。観察地点と観察内容は下図に示す。



各観察地点①権現山皆伐跡地作業路。②大阪間構造線沿いの斜面崩壊現場。③芦北町小口。④槍倒しの瀬。

最初の観察地点である権現山皆伐跡地作業路へ向かった。そこでは、高密度作業路と、それに伴う小規模な斜面崩壊が確認できた。また、大阪間構造線(仏像構造線)沿いの崩壊(受け盤崩壊)も観察した。その後権現山皆伐跡地北方約 1 km に位置する大阪間構造線沿いの斜面崩壊現場へ向か

った。ここでの斜面崩壊は伐採や作業路とはほぼ無関係で、大阪間構造線の破砕帯を伴う地質構造に起因するものとわかった。また、崩壊寸前の亀裂が観察できた。午後、芦北町小口へ向かい、枕状溶岩を観察した後、球磨川槍倒しの瀬にてメガロドン石灰岩を観察、そのあと解散した。

2 各観察地点と観察内容の報告

① 現権山皆伐跡地作業路

作業路開設のための新たな法面や路肩が作られ本来平衡状態にあった斜面を不安定化させ、これが斜面崩壊の大きな原因となっていること、地層の傾斜方向と山の斜面の方向がほぼ一致している箇所では斜面崩壊が起きているとの説明があった。地層は概ね北方に傾斜する砂岩泥岩互層からなっていることもわかった。また、北方約 1 km に見える大阪間構造線について、秩父帯南帯(三宝山帯)に四十帯が沈み込んでいるとの説明があった。

(写真 1)



写真 1 ; 権現山皆伐跡地作業路から見た構造線沿いの斜面崩壊

② 大阪間構造線沿いの斜面崩壊現場

ここでの斜面崩壊は伐採や作業路とはほぼ無関係で、大阪間構造線の破砕帯を伴う地質構造そのものに起因するものだとわかった（写真2）。

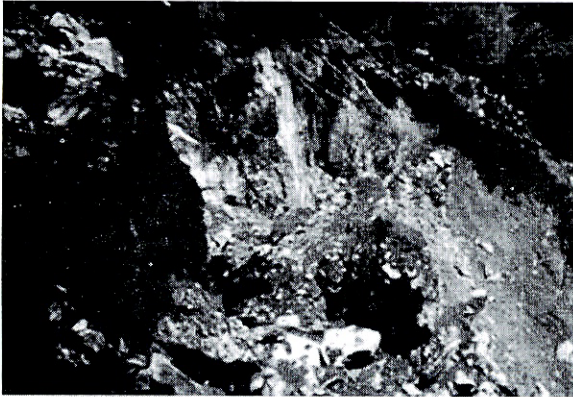


写真2；構造線沿いの斜面崩壊の状況

四万十帯と秩父帯石灰岩も観察できた。南方に権現山皆伐跡地作業路密集地域が見えた（写真3）。



写真3；権現山皆伐跡地の作業路密集状況

③ 芦北町小口

ここでは玄武岩が水中噴出し、海水で急激に冷やされてできた枕を並べたような構造をした溶岩、枕状溶岩を観察できた。ここで見られる枕状溶岩には表面に小さい気泡が見られることから、浅い海で噴出したものと考えられるという説明があった。また、凝灰質泥岩について、赤い色のものは深い海の中で形成されたとの説明があった。

④ 槍倒しの瀬

ここでは多数のメガロドン石灰岩が確認できた（写真5）。また、国道219号線側の岸壁にもメガロドン石灰岩の路頭が確認でき、低角度で層が入っ



写真4；枕状溶岩の露頭状況

ていることがわかった。

メガロドン化石は、中生代三畳紀後期に巨大化した二枚貝のなかまで、温かい浅い海で生息していた



写真5；メガロドン化石の産状

こと、海洋プレート上の堆積物が大陸プレートの下に潜り込む際に大陸側に押し付けられ（付加作用）、現在の位置に現われたことの説明があった。メガロドン石灰岩については、田村実熊本大学名誉教授により精力的に研究され、この石灰岩は赤道直下から日本へ来たことが明らかにされた。

3 おわりに

今回の巡検で資料を準備し、始終丁寧な説明をしていただいた田中均先生に深く感謝の意を表し、巡検会の報告とする。